

# 児童生徒理解と安全教育

チームビルディングとしての防災

慶應義塾大学 環境情報学部

大木 聖子

# 本日の講演内容



地震防災をやるべき地域と  
そうでない地域がある？



訓練に関するモヤモヤ



訓練から児童生徒は何を学ぶのか



訓練改善を各学校で実現するポイント

# 本日の講演内容



地震防災をやるべき地域と  
そうでない地域がある？



訓練に関するモヤモヤ

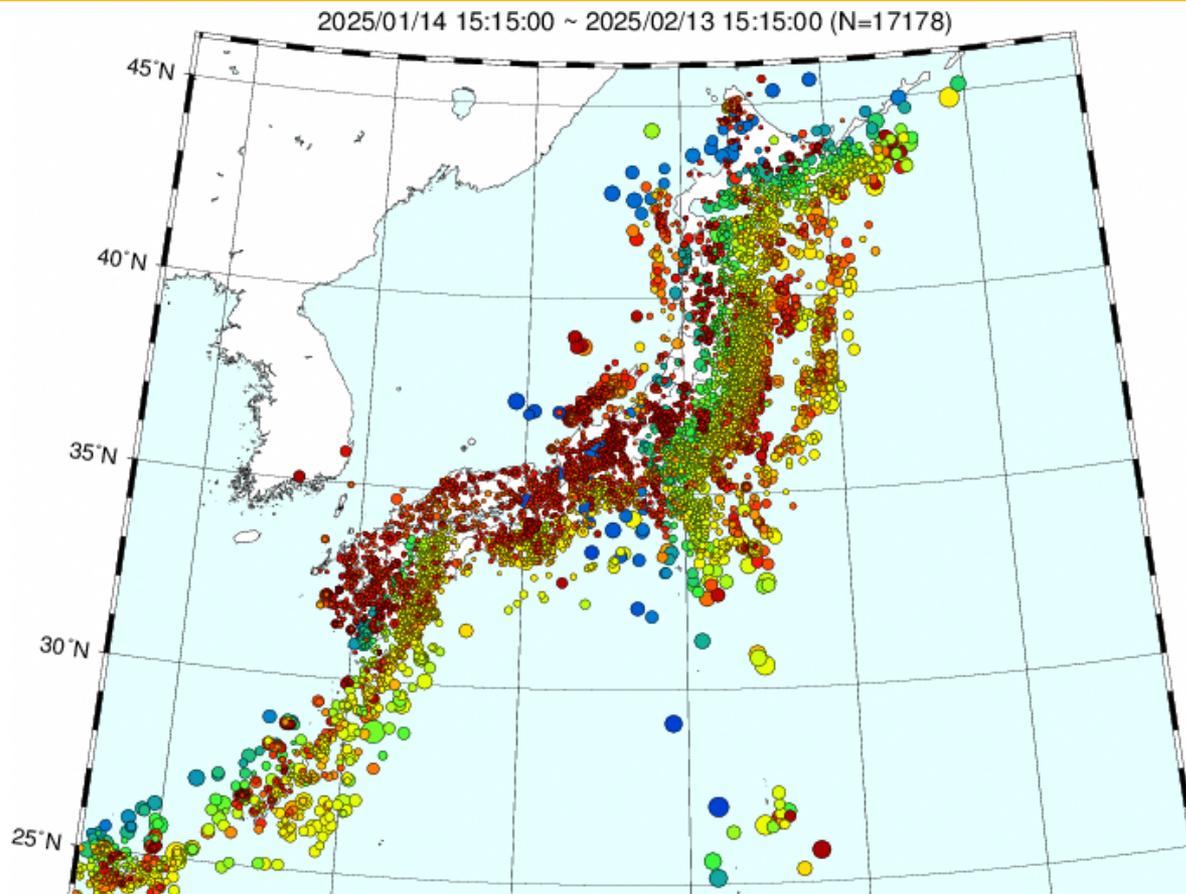


防災訓練から児童生徒は何を学ぶのか



訓練改善を各学校で実現するポイント

# 日本周辺の震源分布（最近30日）



日本のどこでも、マグニチュード7前後の直下型タイプの地震は起こる

# 日本震源地図からは見えない情報

世界の震源分布 (1977-2007)

東京大学 地震研究所



世界の地震の **10-20%** が日本で起きる

# 本日の講演内容



地震防災をやるべき地域と  
そうでない地域がある？



訓練に関するモヤモヤ



防災訓練から児童生徒は何を学ぶのか



訓練改善を各学校で実現するポイント

## 雨天順延

雨の日に地震起きたら  
どうするんだろう？

「本日在籍〇名、  
全員異常なし！」  
異常あったら???

避難訓練に関するモヤモヤ...

## 校庭で引取り

保護者って  
帰宅困難者だよな...

## 急いで校庭へ

腰が抜けた子いたら？  
過呼吸の子がいたら？  
階段で余震起きたら？

## 過去の大地震で起きたこと

- 余震・停電・避難経路の破損・傷病者
- 新耐震基準・耐震化した校舎の倒壊事例はゼロ
- 校庭集合できない → 教室内待機の訓練が不可欠

# 能登半島地震 発生時の揺れ

## ■ MBS News:

- <https://youtu.be/6nar0ZwHrJc?si=kKVgFFGmSkmQo6BT>
- <https://youtube.com/shorts/cmDGO2rPwPE?si=dAvzenCJTa0tNemo>

## ■ ANN News:

- <https://youtu.be/wYMJCErnT0U?si=9poRXCNciOMPjIEO>
- <https://youtu.be/gJgpIQHQCVQ?si=wOkI7MBRrjLHXDmX>

## ■ 日テレNEWS:

- [https://www.youtube.com/watch?v=f8qBm3-u\\_3o](https://www.youtube.com/watch?v=f8qBm3-u_3o)

歩行は不可能 / 立っていることすら困難 / 腰が抜けてすぐに立てない

# 能登半島地震建築物被害調査等報告（速報）

© 国土技術政策総合研究所資料（2024）

<https://www.nilim.go.jp/lab/bcg/siryou/tnn/tnn1296.htm>



## 国総研

国土交通省  
国土技術政策総合研究所  
National Institute for Land and Infrastructure Management

[文字サイズ変更](#) | [交通案内](#) | [サイトマップ](#) | [English](#)



国総研について

About NILIM

研究・活動の紹介

Research & Activity

研究成果・データ

Research results

報道・広報

Press & Information

イベント・講演会

Meetings & Events

採用情報

Recruitment

[ホーム](#) / [国総研資料](#) 第 1296 号検索

## 研究成果資料

国総研資料 第 1296 号

【資料名】

令和 6 年能登半島地震建築物被害調査等報告（速報）

【概要】

令和 6 年 1 月 1 日に発生した令和 6 年能登半島地震は、数多くの建築物に倒壊等の被害をもたらした。国土技術政策総合研究所及び建築研究所では発災直後より、分野別に専門家を現地に派遣し、地震及び地震動、木造、鉄筋コンクリート造、基礎・地盤、鉄骨造、非構造部材、津波・瓦屋根、火災等の建築物被害調査等を実施するとともに、住宅再建・地域復興に向けた調査等を行っている。

本資料は、現段階におけるこれら調査研究の成果を速報として取りまとめたものである。

【担当研究室】

国土交通省 国土技術政策総合研究所  
国立研究開発法人 建築研究所

【執筆者】

国土交通省 国土技術政策総合研究所  
国立研究開発法人 建築研究所

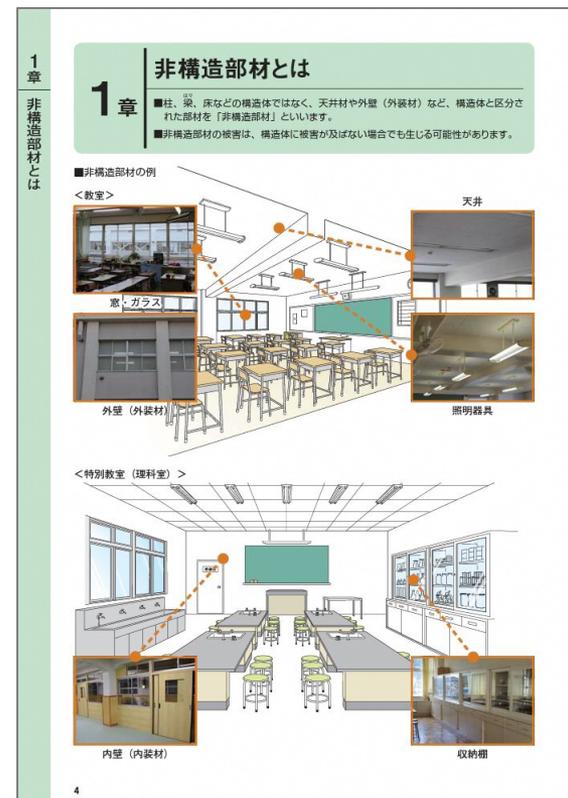
[執筆者一覧](#)をご覧ください。

# 非構造部材に注意

■ 照明・外壁・内壁・天井・バスケゴール, 等

→ 余震のたびに机の下に素早く入る

→ 外に出る時はヘルメットをかぶる



# 2016年10月21日（金）14:07 鳥取県中部の地震 鳥取県北栄町の中学校長による手記

窓ガラスが割れたり、壁が落ちたりするような大きなダメージは認められなかったが、大きな揺れに生徒たちは恐怖心を抱き、パニック状態の生徒の姿も見られた。

地震直後は停電となり、校内放送が使用できなかったため、ハンドマイクを利用して生徒の避難誘導を指示した。指示がなかなか行き届かず、教室内の教師の判断で避難を開始する場面もあった。その日は天候が良かったため、避難訓練通り生徒は外に避難することができたが、荒天時の避難について後日検討する必要があるがあった。

余震が続いたため、なかなか校舎に入ることができず生徒たちの体も冷えてきて、トイレに行きたい生徒、体調に変化がみられる生徒がでてきた。体育館の安全を確認したのち、余震と余震の間を見極めながらクラス単位で、教室棟の荷物を取ったあと体育館に移動して保護者の迎えを待った。

# 過去の災害で起きたこと（被災地教員手記より）

## ■ 過去の被害地震から調査：

- 恐怖で動けない / 避難途中で昇降口で失神
- 腰が抜けて動けない教職員の発生
- 校庭避難途中で転倒して骨折
- 余震で悲鳴 / 余震で嘔吐 / 余震で校外に逃亡
- 過呼吸 / 過呼吸が伝搬
- 机に頭を激突 / 階段で転倒 / 階段での転倒者が他の人を巻き込み
- 保護者と避難者が校庭に混在 / 校庭で転倒

# 阪神・淡路大震災以降，起きていないこと

## ■ Is値 $\geq 0.7$ の学校校舎の崩壊は皆無

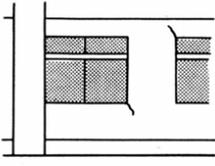
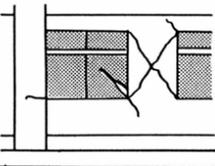
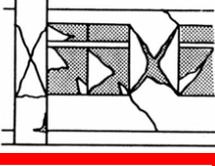
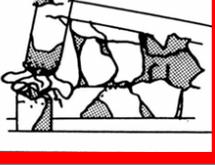
### ■ 阪神・淡路大震災後，学校耐震化

- 公立小中学校の99.9%が完了  
(2024年10月時点)

### ■ 学校の耐震化：Is値 $\geq 0.7$

### ■ 注意すべきところ：

- 渡り廊下等の接合部分
- 非構造部材には特に注意

	ランク	被害状況	スケッチ
被害軽微	I	柱・耐力壁・二次壁の損傷が、軽微かもしくは、ほとんど損傷がないもの。	
小破	II	柱・耐力壁の損傷は軽微であるが、RC二次壁・階段室のまわりに、せん断ひびわれが見られるもの。	
中破	III	柱に典型的なせん断ひびわれ・曲げひびわれ、耐力壁にせん断ひびわれが見られ、RC二次壁・非構造体に大きな損傷が見られるもの。	
大破	IV	柱のせん断ひびわれ・曲げひびわれによって鉄筋が露出・座屈し、耐力壁に大きなせん断ひびわれが生じて耐力に著しい低下が認められるもの。	
崩壊	V	柱・耐力壁が大破壊し、建物全体または建物の一部が崩壊に至ったもの。	

# 安全を確保できる場所をもっと知ろう

## ■ 過去に高確率で起きていること:

- 余震(科学的には100%起きる)
- 停電・校内放送の停止
- けが人・体調不良者の発生

訓練では  
起きないこと  
になっている

## ■ 過去に一度も起きていないこと:

- 耐震化された学校の倒壊

起きること  
にしている

避難訓練は「校庭に行くことが目的」になっていないか

安全を確保できる場所をもっと知っていく訓練をやる

# 実動シミュレーション

- 報告優先順位（赤→黄→緑）を全員で共有
- 停電時の情報共有方法を訓練のたびに練習
- 情報の集約方法を決めておく
- 引き渡しは同時にはしない，安否確認終了後

# 想像してみてください

2月17日月曜日, 朝の会の最中に立ってられないほどの大きな揺れ! 津波情報は出ていませんが, この地域の震度は6強, 余震が立て続いています.

自分のクラスではどんなことが起きそうですか?  
自クラスの子供たちの顔と名前を思い浮かべながら, 具体的に挙げてください.

# 発災直後を再現したようす（実動訓練）

大木研の学生が発災直後の児童生徒を演じている。  
限定公開の動画でご覧いただけます（校内での共有に留めてください）。



↑ 食缶ごと転落，火傷

↓ 理科室前でガラスが散乱



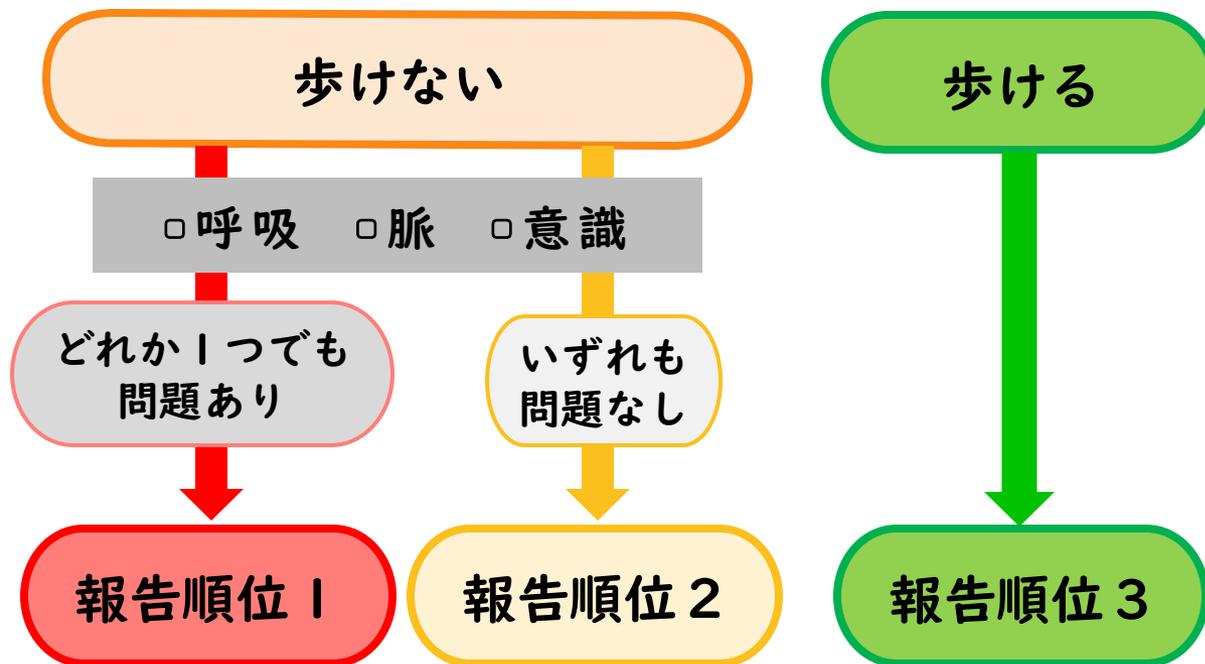
階段で複数名が転落↑

負傷した生徒の体調悪化↓



<https://www.youtube.com/watch?v=LuN7Ek12e1g>

# けが人の見極めと報告順位



- ※ 赤がいたら救急コール
- ※ 出血 → 血が止まるまで圧迫止血
- ※ クーリング・副え木などの対処
- ※ けが人には必ず誰かがつきそう
- ※ 歩けないケガ人は特に注意深く観察を続ける

# 実動シミュレーションによって見えた課題

共通して見られた現象：

目の前の子供への手厚い対応

⇔ 全体を俯瞰して動くこととの両立が困難

① 保健室が機能破綻

→ 保健室への搬送順位を作成

② 保護者・避難者への対応が滞る

→ 保護者への引き渡し訓練と周知

③ 停電時の情報共有が困難

→ 情報共有の仕方を検討、  
何度もやって改善サイクル  
を生み出す（本来の訓練の目的）

- けが人の情報
- 保健室の状況
- 担架の位置
- 本部への伝達, など

# 実動訓練の先生方にとっての目的

うまくやることは目的ではない

本当の地震が起きる前に課題を見つけることが目的

## 個人としての目標：

- ・ 赤・黄・緑の判断
- ・ 情報共有
- ・ 応急処置
- ・ 声かけの継続

## 組織としての目標：

- ・ 応援要請・協力
- ・ 全体を俯瞰しての行動
- ・ 声かけの継続  
(誰一人取り残さない防災)

# 具体的な訓練改善事例 (基本編)

- まずは事前指導を工夫
- 余震ありを導入
- 停電ありを導入

# 訓練の事前指導

- 教室内待機の周知
  - 学校校舎は倒壊しないことを伝える
  - 電灯や内壁が落ちる可能性があるので、机の下に入ることを伝える
- 大地震のときは、必ず余震が立て続くことを伝える
  - 余震のたびに机の下に入れば大丈夫
  - 余震が何回になるかは誰もわからない
- 緊急地震速報の報知音は、嫌な気持ちになるように作っている。怖いけど、みんなを守るための音。
- 抜き打ち訓練にこだわらない。意義のある事前指導をする。

# 「抜き打ち」よりも，充実した事前指導を



## ■ 訓練の事前指導：

- 拳がったリスクを少しでも下げるために必要なコミュニケーションを，子供たちと取る時間

## ■ 写真で危険探し授業・地震ショート訓練

- 「大地震にも自ら対処できる！」という自己有用感をもたらせる教材

# (1) 余震が何度か起きる

余震が発生する訓練を行い，教室内で点呼して終了

1. 事前指導
2. 本震を示す緊急地震速報の報知音を鳴らす
3. 余震を示す緊急地震速報の報知音を数回鳴らす
  - 教職員同士は，何回鳴らすかあらかじめ示し合わせてOK
4. 児童生徒は報知音のたびに机の下に入る
5. 校庭に集合せずに，教室内で点呼をして終了
  - 管理職が集計に来る／学年で廊下で集計する，など

※ 教員の声掛けの例：

- 「ケガしている人はいませんか」「周りの人も大丈夫ですか」
- 「余震来たらまた机の下に入ってくださいね」

## (2) 停電して放送設備が使えない

### 本震や余震の後、他クラスの先生と安否確認

#### 1. 事前指導

- 停電想定なので先生たちは廊下で大声で安否確認する旨を伝えておく
- 他クラスに助けに行くこともあるが、担任不在でも余震の時には机の下に入るように伝える

2. 本震・余震を示す緊急地震速報の報知音を鳴らす

3. 廊下に出て「〇年〇組、無事です!」など情報共有する

4. 安否情報を本部に伝える

- 管理職が集計に来る／学年で廊下で集計する／その場でどの先生が行くかを合議して本部に伝えに行く, など

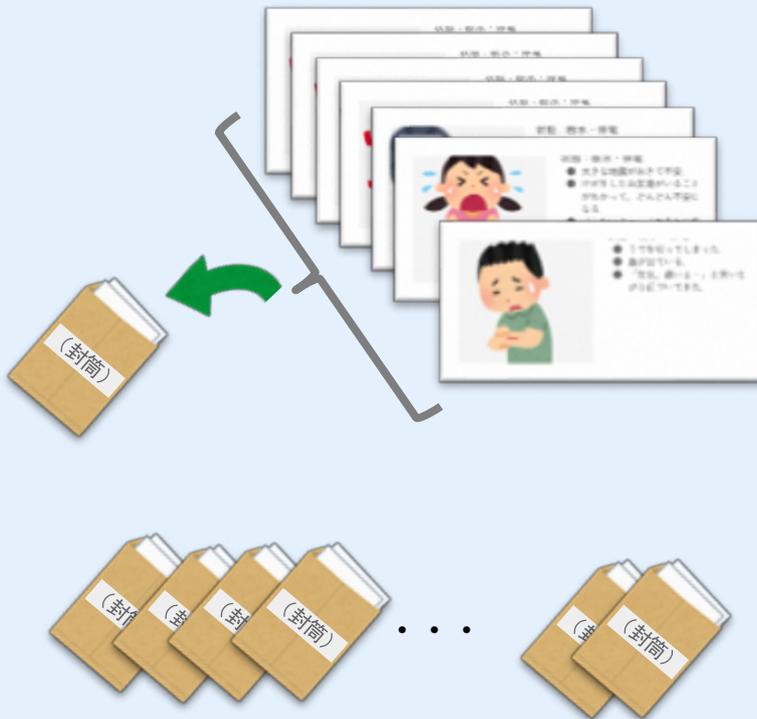
# 具体的な訓練改善事例 (応用編)

- けが人を想定した情報共有訓練
- けが人への声かけを導入した全校訓練

# (3) 封筒訓練 (けが人想定訓練)

けが人が出た場合の情報共有・報告順位を練習

クラスの数だけ封筒を用意



フロア・本部と情報共有

各フロア



本部



# (3) & (4) 封筒訓練 (けが人想定訓練)

## けが人が出た場合の情報共有・報告順位を練習

### 1. 事前指導

- 封筒の中に、架空のクラスメイトが入っていて、ケガをしていることを伝える
- 重症者だった場合は、先生は保健室に行くことを伝える

### 2. 本震・余震を示す緊急地震速報の報知音を鳴らす

### 3. 開封して重症度を確認, 廊下で他クラスに情報共有する

### 4. 安否情報を本部に伝える

- 管理職が集計に来る／学年で廊下で集計する／その場でどの先生が行くかを合議して本部に伝えに行く, など

# 川越市立霞ヶ関西小学校：けが人ありの全校訓練

## ■ 日テレNEWS 『命守る シン避難訓練』



A screenshot of a news article from 日テレNEWS. The page features a navigation bar with categories like 'トップ', '政治', '経済', '国際', '社会', 'スポーツ', 'カルチャー', and 'ライフ'. The article is dated '2023年5月3日 10:30' and is titled '校庭に避難するだけじゃない！ より新しく、より進化し続けている超実践的な“シン避難訓練”とは？'. Below the title is a video player showing a scene from a disaster drill. The video has a red play button and a thumbnail of a woman. Text overlays on the video include '避難訓練の様子', '実践的！命守るシン避難訓練', and 'こどもdpx 中野麻音アナ取材'.

# 本日の講演内容



地震防災をやるべき地域と  
そうでない地域がある？



訓練に関するモヤモヤ



防災訓練から児童生徒は何を学ぶのか



訓練改善を各学校で実現するポイント

中央区立晴海中学校にて：

## 「なぜ子供たちにも赤黄緑を教えたのですか？」

「（休み時間想定の実動訓練を教員がやってみて）何が衝撃だったかって、教室にたどり着けない、っていうことです。生徒が階段でうずくまっている。そしたら教員は止まるんですよ、無視できないんです。

でも、今ならできる。状況を聞いて、『あとで必ず戻ってくるからね。上に赤の人がいないか先に見てくるね。必ず戻ってくるからね』って言い残して、その場を去れる。生徒も理解できる。自分は黄色だから、緑だから、赤の人が優先って。

だから、教員だけじゃなくて、生徒にも、あの赤・黄・緑を教える意義があるんです」

# 生徒の感想：6つの概念的カテゴリー

概念的カテゴリーを抽出 (佐藤(2008)による質的データ分析法を使用)

概念的カテゴリー	記述例
災害を想像	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回はケガが人役をしましたが、自分がケガしたらどんな風に先生に伝えたらいいとか実際はどのように対応されるのかを考えて行動する事ができました。実際にそんな事がおきたら訓練のように行動したいです。</li> </ul>
訓練での学び	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように声かけをすればいいのかが分かった。</li> <li>大きな地震だと、先生たちはかぎられたたなかでたくさんの人をはこばないといけないから、大変だと思った自分でもどうすればいいのかわからずあまり助けることができなかった。もし本当のじしんがあったらやばい事がおきるかもしれないと思った。そして上の物が落ちてきたらやばいと思った。</li> <li>しっかり協力することで早くケガ人などを確認したり、より効率的に状況を把握できるのだとわかりました。</li> </ul>
実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>危ない場所をあらかじめ見て、どの様に自分を守ればいいのか見つける事ができた</li> <li>先生だけじゃできないとき、自分も動いたほうが良いということがわかった。</li> <li>大きな地震が起きて、友達がケガをしたとき、自分ができていることを考えて動こうと思った。</li> <li>先生達の焦りがじゃっかんみえた部分もありました。ですがクラスの人も集中して</li> </ul>
意欲	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の訓練では、自分達が教室にいる時に、ケガ人がでた場合の対応を知ることができましたが、階段や廊下にいる時やそこでケガ人がでて、先生が周りにいない時の対応を教えてくださいなかつたため、その時の対応のし方を知りたいです。</li> </ul>
新たな訓練	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回はいつもの訓練とちがって何度も地震があったり、けが人もたくさん出たので、臨場感がでました。また僕は、伝える人だったので、大変でした。</li> <li>やったことのないタイプの避難訓練で、分からないこともあったけど、良い経験だと思う。小学生でも、これなら嫌がらずに訓練を行いそうと感じた。</li> <li>訓練でした事以外の予そくできないことがあるから今回のような訓練も大切だと思った。</li> </ul>
訓練で生じた感情	<ul style="list-style-type: none"> <li>何回も地震がきて、本当に地震が起きたら、もっと余震が起きるのかな...と不安になったが、今、そのことを考えることができよかつたと思う。本当におきた時にも、余震に対して冷静に対処していきたい。</li> <li>クラスメイトがけがをしたのに気が付くことができなかつたので悔しい。</li> <li>緊張して、自分にできることがなかつたため、少し悔しく感じた。</li> <li>先生方が、しんけんに取り組んでいる姿をみて、私達も真剣に取り組もうという気持ちで訓練できたと思います。</li> </ul>

# 概念的カテゴリーのストーリー化

生徒は、余震や停電，傷病者が出る訓練を，  
今までになかった「**新たな訓練**」と認識し，  
具体的に「**災害を想像**」し，「**訓練での学び**」を得た。  
そして，訓練の中での「**実践**」を通し，  
新たな学習や改善の「**意欲**」や  
「**不安や悔しいなどの感情**」を抱いた。

# 課題達成に向かう確かな情動力（非認知能力）

訓練は教育課程に位置づいており、  
児童生徒の資質・能力を高めるための活動である

- ① 興味関心を持ち、
- ② 価値ある目標への高い達成動機のもと、
- ③ その実現に向けて自己統制し、
- ④ 困難と粘り強く向き合い、
- ⑤ 多様な人々と良好な協力関係を結びつつ、  
課題の達成に取り組む

→ 実効的な訓練に改善した学校は、訓練を通して  
「主体的・対話的で深い学び」を実現している

# これを実現した教職員の姿勢

- ① 子供たちを動機づけ、
- ② 挑戦への意欲と期待を示し、
- ③ 困難に陥ったときは可能性を示して励まし、
- ④ 達成したときにそれまでの過程を  
価値づけるような支援を行う

情動的に展開されるストーリーづくりを助け、  
それに寄り添う、という立ち位置

→ 防災教育に限ったものではなく、むしろ、  
普遍的な教員の資質・能力と言える

# 本日の講演内容



地震防災をやるべき地域と  
そうでない地域がある？



訓練に関するモヤモヤ



防災訓練から児童生徒は何を学ぶのか



訓練改善を各学校で実現するポイント

# 令和5年度 取組状況調査（文科省調べ）

全国の国公立の小・中・高・特支・幼稚園等 38,171校を対象

学校経営に学校安全を明確に位置づけている	97.4%
学校安全計画に安全教育について盛り込んでいる	99.7%
学校安全に関する活動について、評価や振り返りを実施している	97.0%
学校安全推進の中核となる教員を、管理職以外に位置づけている	98.0%

# 学校安全推進の中核となる教員（複数選択可）

安全主任・防災主任



58.2

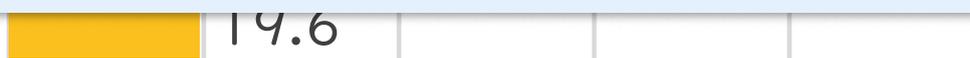
主幹教諭



15.2

安全担当者「だけ」への研修では  
改善に至らないところが大多数

その他の教諭等



19.6

事務職員・用務員・技師等



7.3

その他の教諭等



2

0 20 40 60 80 100 [%]

（文科省調査を筆者がグラフ化）

# 訓練改善のキーパーソン（大木研調べ）

## 防災教育モデル校

- 管理職からの理解があった
- 他教員の理解があった
- 子供たちのため
- 防災そのものが楽しかった

## モデル校以外

- 管理職からの理解があった
- 他教員の理解があった
- 子供たちのため
- 前任校でやっていた
- 校種間連携の訓練で
- 周辺校との比較による焦り
- 市指定の継続的な研修

## 熱意のある教員はいるが改善に至らなかった学校

- 管理職からの許可は得られたが熱意は得られなかった
- 他教員からの理解がなかった

# 訓練改善と継続ができる学校の特徴

- 防災に対する熱意だけでなく、むしろ、訓練を改善すること自体への面白さや、子供の命を守るため・訓練を通して子供の成長を見られる喜び、を伝達

参考：植野（2015）

## ■ 訓練の改善が継続している学校の特徴

- 年度初めに全教職員に対して、校長が、「本校にとって安全は大切なこと」と熱意をもって伝える
  - 安全担当が動きやすくなる
  - 職員室が前向きに受け止める
  - **子供たちと教職員の命が守られる環境ができる**

# 「自クラスでは何が起きる？」 の問いかけで 全教員体制へ

- 「X月X日，朝の会で地震が起きたら自クラスは  
どうなるか」を学年で話し合い・学校全体で共有
- 児童生徒指導の観点から，訓練時の事前指導や平時  
にどのような声掛け・指導が可能か考えて共有

## グループワーク 5-10分

2月17日月曜日,朝の会の最中に立ってられないほどの大きな揺れ!津波情報は出ていませんが,この地域の震度は6強,余震が立て続いています.

自分のクラスではどんなことが起きそうですか?  
自クラスの子供たちの顔と名前を思い浮かべながら,具体的に挙げてください.

# 全教員で発災時について考える機会を持つ

学校安全を安全担当者だけのタスクにしない  
全教職員のものとなれば自然に優先順位が上がる  
(現実的に地震は全員に同時に起きる)

**生徒指導部会の時間**などを活用して**全教員で実施**

「安全担当者のやること」ではなく  
全教員が、「自分も共にやること」だと認識する機会とする

# 自クラスの発災時リスクは学級運営で最小化

起こりうること

1. 全員机の下には入れると思うが、平時からハイリスクな女児Aは泣き叫ぶ
2. 揺れが収まったらAは私にしがみつき、私もAをトントンしてなだめる
3. 自分もトントンしてほしい児童が一気に机の下から出てきて、私は身動きが取れなくなる

対処方策

- ・ Aが泣き叫ぶのはやむなしだが、ほかの児童を自席にとどまらせることはできそう
- ・ 事前指導の「おかしも」を発展させて、「先生のクラスでは、机の下から小さな声で励ましあうのはOKとします。『大丈夫だよ』『がんばろう』と声を掛け合いましょう」と伝えてみる

# 防災を通して人を育む

## ■ 防災教育とは

「発災当日にどう対処したらいいのか」  
の正解（知識）だけを求めるものではなく、  
「発災までに、どうやったらリスクを下げられ  
るのか」を伝える学級運営／探究活動。

「防災の教育」ではなく「防災を通じた教育」

教職員が児童生徒を管理する訓練から、  
ひとりひとりが「いま自分がすべきことは何か」  
「自分より困った状況の人はいないか」  
を絶えず考え続ける訓練へと変化

「だまらせろ，ならばせろ」ではなく，  
教職員と子供達が協力して命を守り抜く学校へ

まずはショート訓練，次いで余震と停電想定の訓練から  
( 瞬時に机の下へ & 情報共有 )

## STEP 1 自校に帰って共有

安全担当



児童生徒理解の視点で  
考える学校管理下での防災

を と共有  
生徒指導  
主事/主担当



## STEP 2 教員研修の実施

安全担当  
生徒指導担当

すべての  
教職員



児童生徒理解の視点で  
考える学校管理下での防災

を用いて  
生徒指導部会/会議  
で教員研修を実施

\_\_月度 生徒指導部会

部会の終わりに、STEP 3 のどれかを次回訓練でやることを提案、  
事前指導の内容や声かけのあり方を少し変えてやってみましょう

## STEP 3 避難訓練の改善

企画：安全担当

参加：すべての  
教職員

すべての  
児童生徒

本震のみ → 余震あり

電気・放送が常に生きている前提 → 停電あり

校庭避難のみ → 教室内待機

できるものから、少しずつ、  
取り入れてみましょう

実施予定日：\_\_\_\_\_

## STEP 4 「封筒訓練」の実施

STEP 2 で出た意見に基づいて...



企画：安全担当

参加：すべての  
教職員

教材  
「はじめての封筒訓練」

実施予定日：\_\_\_\_\_

## 発展 状況に応じて実施

- ・児童生徒もいる場で封筒訓練
- ・児童生徒が演技する封筒訓練
- ・PTA/保護者が見学の全校訓練
- ・PTA/保護者が参加の全校訓練

みんな で取り組む

# 学校防災 のすすめ

安全担当  
生徒指導  
主事/主担当



すべての教職員



児童/生徒



PTA  
保護者



次年度に  
向けた検討